

## 1 研究の趣旨

一部の学校において、文法・訳読中心の授業や入試の対策に特化した授業が展開されるなど、コミュニケーション能力の基礎を養うことを主眼とする中学校学習指導要領の目標に沿った指導が行われていない現状がある。この課題を鑑み、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善を主な目的として、「CAN-DOリスト」が導入された。それにより、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を、「言語を用いて何ができるか」という観点から「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定・公表するとともに、その達成状況を把握することが各学校に求められることとなった。しかしながら、国からガイドラインが示されず、各学校において、生徒の学習状況や地域の実態等を踏まえながら学習到達目標を設定することとされたため、作成の段階で戸惑う先生方も少なくない。そのため、作成した「CAN-DOリスト」を、実際にどう活用していくかという段階までは至っていないのが本県の現状である。そのような状況を改善するため、教育センターとして、「CAN-DOリスト」の作成や活用方法について研究を行い、いくつかのアイデアを県内に発信するとともに、それらの普及に努めていきたいと考える。

## 2 研究の概要

### (1) 「CAN-DOリスト」の導入に係る負担を軽減するためのアイデア

#### ① CAN-DOリストの作成に当たって

「CAN-DOリスト」を作成し、活用を図っていくことは、先生方にとって新たな取組である上に、「CAN-DOリスト」を導入しやすい環境が整備されているわけではない。また、何もベースになるものがない状態からの作成は困難であり、既存のリストを参照しようにも、それらが、学習指導要領の内容に基づいているとは限らない。そのため、学習指導要領の内容に基づいて効率よく「CAN-DOリスト」を作成する方法について研究を行う必要性を感じる。

#### ② CAN-DOリストの活用を始めるに当たって

「CAN-DOリスト」を実際にどう活用していくかについては、中学校における参照可能な先行事例が少ないこともあり、具体的な方法についてイメージをもつことができない先生方が多い。そのため、毎時間の授業の終末に、授業中に行った全ての学習活動について「できたかどうか」を自己評価させることが、「CAN-DOリスト」活用の中心に据えられる事例が増え、先生方の負担感を増やしかねない現状がある。そこで、「全ての授業においてCAN-DOリストを活用しなければ」等の固定観念にとらわれないことと、できるだけ先生方の負担増につながらない柔軟な活用方法について研究を進めたい。

### (2) 「CAN-DOリスト」を実際に活用するためのアイデア

#### ① 同種の言語活動を繰り返す

「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定した学習到達目標は、生徒が自力で解決を図ることを前提としている。教師や友達の助けがある中で一度目標を達成したからといって、自力で解決できる力が身に付いているとは限らない。したがって、複数の単元において同種の言語活動を繰り返す中で、徐々に自力解決を図れるよう指導していく必要がある。ロングスパンの中で、効果的に同種の言語活動を繰り返していく方法について研究を行いたい。

#### ② 「できた」「できない」の二段階基準にしない

学習到達目標に対する生徒の達成状況には幅があり、できたか否かの二段階基準で評価を行ってしまうことで、「CAN-DOリスト」が「CANNOT-DOリスト」になってしまいかねない。そこで、生徒が目標を達成する上での基準を複数段階設け、その基準を生徒と共有する方法を研究することで、生徒が、「やればできる」という自己効力感を味わいながら徐々に自力解決を図っていくことにつなげたい。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

教育センターにおける研修講座において、「CAN-DOリスト」の作成や活用に向けたアイデアについて提案を行った。講座の感想等から、先生方が「CAN-DOリスト」の趣旨について理解を深めるとともに、先生方の「CAN-DOリスト」導入に係る不安感がある程度軽減することができたと感じる。そして、研究協力者である2名の先生方の現場での実践の成果についても、県教育研究発表会等で共有することで、「CAN-DOリスト」のさらなる普及につなげたい。

### (2) 今後の課題

県内の多くの先生方に「CAN-DOリスト」活用の利点について理解を促し、実際に活用を図ってもらうために、教育センターとして、現場での実践事例やその成果等について紹介を行っていく必要性を感じる。そのためにも、講座に参加された先生方を中心に、「CAN-DOリスト」活用のネットワークを広げていくことができたと思う。